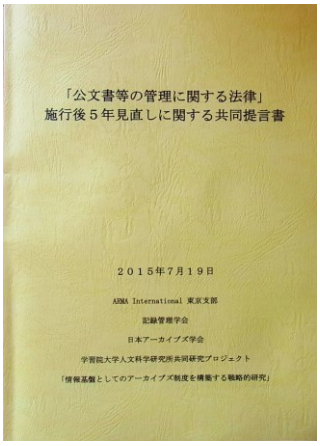
ISSN 1342－632X
国際資料研究報 Documenting Japan International Report 国際資料研究報 Documenting Japan International Report 国際資料研究報 Documenting Japan International Report 国際資料研究報 Documenting Japan International Report
DJI レポート No.102 20151020
国際資料研究報 Documenting Japan International Report 国際資料研究報 Documenting Japan International Report 国際資料研究報 Documenting Japan International Report 国際資料研究報 Documenting Japan International Report
〒251-0045 神奈川県藤沢市辻堂東海岸3－8－24 fax+phone 0466－31－5061 Email：djiarchiv@yahoo.co.jp

公文書管理法５年見直し合同研究集会と共同提言書の提出 ～記録管理学会研究成果報告書も手交～



7 月 19 日に採択された共同提言書

8 月 21 日、内閣府での共同提言書の預け渡し
森丘公文書課長は右奥から 2 番目。左は西川氏、保坂教授、撮影小川千代子

上 7 月 19 日合同研究集会で挨拶する小川
下 8 月 21 日内閣府公文書課長に記録管理学会プロジェクト研究成果報告書を手渡す

昨年 12 月 20 日、今年に入って 3 月 14 日、7 月 19 日の 3 回にわたり、学習院大学の保坂教授を中心に合同研究集会を開催し、検討を重ねてきた公文書管理法５年見直しの議論は、提言書(写真)が取りまとめられた。この提言書は安倍晋三総理大臣、有村治子内閣府特命担当大臣、宇賀克也内閣府公文書管理委員会委員長、衆参両院議長、最高裁判所長官、谷垣 禎一「世界に誇る国民本位の新たな国立公文書館の建設を実現する議員連盟」代表、各政党党首に届けることを決めた。保坂教授は有村担当大臣（又は副大臣、政務官）に手渡しする道を探ったが、結局日程調整がつかなかった。しかし、保坂教授の熱心な交渉の結果、内閣府の公文書管理課長が有村特命担当大臣及び内閣総理大臣の分の共同提言書を預かり、内閣府から担当大臣及び総理大臣に提出してもらえることとなった。

8 月 21 日午後、この共同提言書の策定にあたった保坂教授、西川康男氏（ARMA 東京支部）、小川千代子(記録管理学会)の 3 名が内閣府に出向き、公文書管理課の森丘宏課長と会い共同提言書の預け渡しを行った(写真)。昨年 12 月以来半年余にわたる合同研究集会の成果がこれで決着を見たことになる。また、併せて小川は記録管理学会プロジェクトによる『「公文書管理法５年見直し」に向けての研究成果報告書』を森丘宏公文書管理課長に手渡した(写真)。

なお、9 月 28 日に開催された第 44 回公文書管理委員会では、5 年見直しのスケジュールが示された。10 月以降、公文書管理委員会を複数回開催し、行政文書の管理、法人文書の管理（国立公文書館等の指定の在り方）、特定歴史公文書等、 地方公共団体の文書管理、公文書管理を担う人材の育成などを検討するとともに、海外事例調査 、行政機関からのヒアリング 等を実施して、平成 28 年 2 月以降、取りまとめに向けた作業を開始する予定となっている。8 月 21 日に提出した共同提言書はこの委員会で配布資料 1－4 として配布された模様。

公文書管理委員会の詳細：
内閣府ホーム ＞公文書管理＞公文書管理委員会 ＞委員会開催状況＞2015 年度＞第 44 回配布資料
http://www8.cao.go.jp/koubuniinkai/iinkaisai/2015/20150928haifu.html（2015-10-03 確認）

おもな内容 DJI レポート No.102 20151020

法5年見直し合同研究集会と共同宣言の提出……1
【散歩道】図書館を使う……2
【散歩道】「月報」あれこれ 藤女子大学図書館の場合……3
文献紹介・防衛白書……4
あしあと/活動……5
巻末随想……6

【アーキビストの散歩道】

図書館を使う！

図書館のセンセイとして

私事ながら、2013 年 4 月以来、大学の図書館情報学課程で教べんをとるようになった。学生は、図書館員のタマゴたちだから、図書館の使い方、図書館員としての使われ方などを知ってもらいたいと考え、図書館見学を授業に取り入れた。普段から利用している大学の図書館が、どんな仕組みでどんな仕事をしているのかを知り、その結果として、普段見ている図書館の別の側面を勉強してもらうことに成功した。ついでに、今働いている図書館の人々はなぜ図書館員になったのか、など就職の経緯なども教えてもらい、図書館司書の勉強をすることが具体的な就職先とつながって見えたようで、仕掛け人としてはとてもうれしかった。

図書館はこんなに便利～本を借りる～

ところで、筆者自身の図書館の使い方を少し紹介しよう。

図書館、当然ながら本を借りるという使い方が基本だ。教員はなんと 1 年間の貸出期間があるので、図書館の蔵書といっても、借り出してしまえば自分の研究室の蔵書みたいなものである。だから、あとで返却しなければいけないことを忘れてはならないと、逆にその取扱いにはかなり神経を使う。書架の一段を、図書館の本の棚に決め、ここに借り出した本と、読書ノート、表紙のコピーをまとめたフォルダを一括しておいている。期限が近付くと、読書ノートにメモを書く。それで、返却する。こうすることで、簡単な読書案内も作れる。表紙のコピーがあれば、これに基づいて気になる本は別途購入することもできる。以上は、利用者としての基礎編。次に応用編。

図書館はこんなに便利～OPAC 活用～

その 1 は図書貸し出し予約システム。OPAC という図書館の目録データベースを見て、借りたいな、と思う本は、予約することができる。予約した本は、次に図書館に行ったときに聞いてみると、「ア、来てますよ」とカウンターですぐに出してくれる。これは大学に限らず、筆者の地元の公共図書館でも OK で、とても便利。但し、自分で取りに行ける開架の場合は、あまりこれに頼りすぎてはいけない。「本館では、ご自分で取りに行っていただけませんか？」というコメントをいただいてしまった。

図書館の相互貸借システムは素敵だ！

図書館には IIL というシステムがある。これを利用すると、いつも使う図書館にはない図書を利用することができる。IIL とは、図書館の相互貸借のこと。大学図書館相互、あるいは公共図書館の本館・分館の相互などで、所蔵資料の融通が行われる。このシステムは大学や研究機関の所蔵資料の横断検索システム CiNii と組み合わせると、圧倒的な強みを発揮する。地域図書館システムなら遠くまで出かける代わりに近隣おなじみ図書館（室）にお取り寄せしてもらえるし、返却もそこで済むという便利さがある。

先生として、学生のために

そして、教員という立場に頼る利用推進の上級編。大学図書館では、教員の指定図書という制度がある。学生にぜひ読んでほしい図書類を図書館に備え、指定図書というコーナーにまとめて配架してもらう方法だ。この制度は筆者が図書館司書資格を目指していたころの教科書に掲載されていた。図書館に、学生が必ず使う参考図書をある程度の冊数をそろえて、受講するときにそれを使うことができるようにする制度と説明があった。そこで、先ごろ図書館の担当者の方に相談した。そして、アーカイブに関する参考図書を指定図書コーナーに備えてもらえることになった。夏の集中講義のとき、テキストとは別に参考資料としてコピーで配るには大変だが、手元にそれがあればとても便利な資料集。集中講義が始まる少し前に図書館に行ってみたら、確かに指定図書のコーナーに希望の参考図書がズラリと備えられていたではないか(**写真**)。思わず顔がほころんだ。

早速、夏休み中の集中講義では、授業初日に受講生のみなさんに借りてもらい、授業終了時には返却することも忘れずに、と言おう。夏季集中講義の楽しみが一つ増えた。(ち)

「月報」あれこれ　藤女子大学図書館の場合

「月報」、聞いたことありますか？月報は年報、週報、日報などと同じく定期的に業務の遂行状況を報告する事務的書類、これが記録管理とアーカイブを専門とする筆者の基本理解です。しかし、子供の頃、父の書斎の床に、月報というタイトルの薄っぺらな印刷物が悲しげに転がっていた、ほのかな記憶があります。この月報は、多分なんとか全集というむつかしい本に挟み込まれてきていて、本体のこぼれ話などが割と気楽に綴られたもののようでした。難しそうな本はさておき、悲しげに床に横たわるこうした「月報」を拾い上げてパラパラ見たこともあった気がします。その印刷物の「月報」が、勤務先の藤女子大学図書館ではとても大切に取り扱われている、というお話を聞いてください。

手元の図書館用語辞典[1]は月報を次のように説明しています。「月々の報告、またはそれを載せた印刷物。出版用語としては、全集や叢書など毎月逐次的に出される本に挟み込まれるリーフレット、またはパンフレット以外の印刷物のことを言う。著者の略歴、著者についての思い出やエピソードなどが載る。変わったところでは、毎月の月報に小説を連載し、全集の簡潔と同時に小説も完成するというものもある。図書館では、読み物として、あるいは調査の参考資料として使うため、表表紙を開いたところに貼り付ける例が多く見られる。また、月報だけをまとめて製本しているところもある。」

まず、勤務先ではない 2 つの図書館に出向き、月報の扱いを見てきました。どちらも、本体の表紙に月報は貼り付け処理されていました(**写真上**)。これが一般的な処理だと用語辞典にも書いてありました。近隣の公共図書館で見かけた江戸川乱歩全集の表紙裏に貼り付けられた月報は、月報としてはかなりインパクトのある写真がその表紙を飾っているだけでなく、本体の表紙裏に用いられている紙もまた、レンガ色のなにやら怪しげな模様がありました。これだけでもう、江戸川乱歩の世界が見えてくる…。なかなか雰囲気作りにも役立っているような印象がありました。

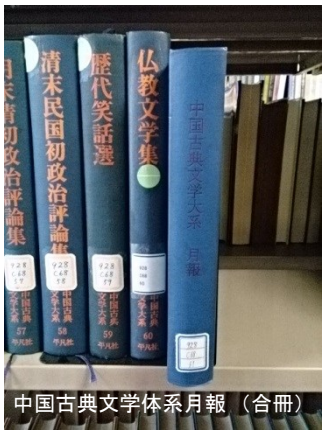
ところで、藤女子大学図書館では、月報だけをまとめて製本し、これを全集本体に付属する 1 冊として配架しています。これを見た他の図書館の方が、藤女子大学はスゴイ、と感想を述べられたそうです。ではなぜ、これがスゴイのか。本誌読者各位には、そんなことは説明するまでもないのかもしれません。しかし、今一度、図書館の作業を思い出してください。図書館が受け入れた図書は、一冊ずつ図書館の図書として使えるようにするための作業が施されます。

はさみみ・のりづけ
江戸川乱歩全集月報

OPAC への入力と資産登録をすると、次に図書にはラベルが貼付されます。これが終わると、書架の所定の位置に配架されます。この作業は、スピードが求められます。雑誌の場合は、各号の入力作業の他、配架後一定の期間を経過すると合冊製本が行われます。こうした作業の流れの中で、毎月発行される全集の全冊が書架上に揃うまで、その全集に挟み込まれていた全集の月報だけを別に集めて、全号が揃ったら月報だけをまとめて製本を行い、さらには製本された月報合冊の OPAC 入力以下の作業も行う。これが藤女子大学図書館での月報の取扱いです。

全集は数冊から数十冊発行されます。その発行終了まで、月報も発行され続けます。従って、月報が出揃うまでには数か月から数年という時間を要するのが普通です。月報を揃えるためには数か月から数年を要する息の長さがもとめられます。この息の長い作業が行われていることこそが、我が藤女子大の月報の扱いが「スゴイ」といわれる理由に違いありません。

なお、藤女子大学図書館の OPAC を「月報」で検索したところ、64 項目がヒットしました。内訳は、「月報」というタイトルを含む図書、雑誌が 32 件、「月報」そのものに関する研究書 3 点、「月報」の目録 1 点、本稿が着眼した「製本された月報」が 32 点（図書・雑誌との重複 5 点含）でした。



中国古典文学体系月報（合冊）

月報の目録からは、月報付きの全集が発行されている分野は文学芸術から科学・工学などなど、実に多岐にわたっていることが知られます。冒頭ご紹介した手元の図書館用語辞典の解説では、月報付きの全集は主として文学全集であるかのような印象を受けましたがこれは私の読み間違いだったのかもしれません。

薄っぺラの印刷物というその形状故にともすれば失われやすい「月報」、藤女子大学図書館では深い愛情を注ぎ、合冊製本して本体全集とともに排架して、利用者を待っています。

『藤女子大学図書館だより』No.90、『ふぉーらむ』No.12 既報

[1] 『最新　図書館用語大辞典』図書館用語辞典編集委員会編、柏書房、2004 年発行

●◆▼やぶにらみ文献紹介【●図書◆論文▼逐次刊行物■その他】

▼防衛白書―軍隊の情報公開世界調査にかかわって

防衛白書 2014 表紙

2014 年秋、一通のメールが着信した。発信は旧知の米国人アーキビスト、トルディ・ピーターソン。トルディは、1995 年米国 NARA 館長代理を最後に退職、その後は国際畑のアーキビストとしてさらに飛躍した。現在は独立コンサルタントであり、「ICA アーカイブと人権ワーキンググループ」ではニュースレターの発行で気を吐いている。緒方貞子氏が UNHCR に在職していた 1990 年代の後半、トルディは UNHCR のアーカイブ課長であった。

トルディからのメールは、「オープン・ソサエティ・イニシアチブという団体が行う調査に協力してほしい。各国の軍隊の情報公開に関するアンケート調査です。やってくれるよね！」という内容。これって、どうかな。結構重そうだけど。。。しかし、その調査主体であるオープン・ソサエティ・イニシアチブといえば、特定秘密保護法が制定される前後に日弁連が翻訳・紹介したツワネ原則を取りまとめた団体だ。これ、やってみたいな、という気持ちになって、協力する旨の返事を出した。

しばらくして担当者のサンドラからアンケート調査の質問票が届いた。当然ながら英語の質問票で、全部で 16 頁ある。まずはこれを日本語に直すところから、この調査業務は始まった。

タイトルは Armed　Force とある。辞書で確認してこれを軍隊とすることに決めた。でも、軍隊、日本には存在するの、しないの？アンケート調査の質問票は何とか辞書と首っ引きで日本語に直した。日本語に直してみると、日本の状況をどのように表現できるのだろうか。もう少し、国内状況を知っておく必要がありそうだ。国会図書館官庁資料室に出向き、相談した。

国会図書館では、防衛白書を見るように、というアドバイスを得た。もちろん、官庁資料室に防衛白書があった。手に取ってみた防衛白書は、ズシリと重く、サイズは A4 よりも高さが 2 センチほど低い。冒頭ダイジェスト部分や巻末資料も含めると 550 ページくらい。英語版もあるという。図書館でこれを熟読するのはかなり困難と思われた。そこで、国会図書館は早々に引き揚げ、政府刊行物センターに出向いた。

政府刊行物センターで防衛白書を手に入れるのは、いとも簡単だった。当たり前といえば当たり前なのだけれども、本屋の店頭に売れ筋の雑誌みたいに平積みされていた。

手にした防衛白書。資料編を除き全ページカラー印刷で、なかなかソフトな印象の仕上がりである。英語版も入手した。日本語版の約 5 倍という価格設定はなんだか日米同盟思いやり予算的。ただし、内容はきっちり日本語と同じ。写真の位置も記述の位置もピッタリ同じ。この辺日米同盟のなせる業か。その中で、「軍隊の情報公開」という調査項目に該当するところを探すのは、なかなか難物だった。難物であるから、防衛白書をずいぶん丁寧にひっくり返してみた。そこには、普段の生活の中では想像もつかないような国防と軍事の情報世界が繰り広げられている。防衛省と自衛隊との関係がどのようなものなのか、自衛隊という組織がどのような広がりをもつものなのか、災害現場でお世話になる以外には触れる機会もない自衛隊という組織のことも、防衛白書には詳しく盛り込まれていることを知った。

3 月には防衛省の情報公開窓口へも足を運んでみた。建物へ出入りする車や人の多いことに驚いた。

この調査業務そのものは 6 月に終了したが、その後の日本国内の動きは、波乱万丈の時期を迎えている。『防衛白書 2015』(写真)もすでに発行済だ。防衛省のサイト http://www.mod.go.jp/j/publication/wp/からは、PDF 防衛白書は無料で入手できる。防衛白書、これからも注視しようと思う。(ち)

●特集　千代子のあしあと●◆▼●◆›●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

▼DJIレポート No.102 2015 年 10 月 20 日 up、6 頁、PDF. www.djichiiyoko.com Web 国際資料研究所
▼RMSJ ニュースレター7 月号 No.71
4-6p「記録管理学会 2015 年研究大会研究発表への感想」
▼「月報」とその取扱い　ふぉーらむ第 12 号 2015.9.30 p.12-13, 図書館サポートフォーラム
▼「月報」とその取扱い　図書館資料 Navi 第 6 回　藤女子大学図書館だより　No.90　2015.10　p.6

DJI国際資料研究所の主な活動　2015 年 6 月 21 日～2015 年 10 月 20 日

＜執筆＞
・『DJI レポート』No.102 2015.10.20 発行　4 頁 www.djichiiyoko.com　に PDF 掲載
・『RMSJ Newsletter』No.71　記録管理学会 2015 年研究大会研究発表への感想
＜HP 掲載＞
磯山麻衣「公開される「秘密」公文書」
DJI の Repository -大学院の授業成果リポジトリ->東京大学大学院情報学環「アーカイブの世界」
http://www.djichiiyoko.com/
＜出講＞
6 月 27 日 7 月 4, 11,18,25 日、8 月 1 日　藤女子大学図書館情報学課程「図書館概論」「図書館情報資源概論」札幌
6 月 23,30 日 7 月 5,7,14 日　東京大学大学院情報学環学際情報学府「アーカイブの世界」東京
6 月 18,25 日 7 月 2,5,9,16 日 中央大学「記録管理論」東京
7 月 8,15 日 学習院大学総合基礎講座「記録保存と現代」東京
8 月 6－10 日、藤女子大学図書館情報学課程夏季集中講義「アーカイブズ論」札幌
9 月 16,30 日　鶴見大学「記録管理論」
9 月 19,26 日　藤女子大学図書館情報学課程「情報資源組織論」札幌
＜見学＞
7 月 5 日　寒川文書館、神奈川県（中央大学記録管理論）
7 月 13 日　諏訪大社、タケヤ味噌本社、長野県
8 月 6 日　北海道立文書館（藤女子大学夏季集中講義）
8 月 7 日　北海道大学文書館（藤女子大学夏季集中講義）
9 月 4 日　ジャルダン・ボタニク、ジュネーブ
＜鑑賞＞
10 月 14 日　小松原庸子舞踊団「天目山 曜変の舞い」国立劇場小劇場、東京
＜参加＞
7 月 8 日　寒川文書館運営審議会、神奈川県
7 月 12-13 日　千種台幹事会研修　白樺湖、長野県
7 月 14 日　戦争への道をゆるさない 7.14 東京集会、日比谷野外音楽堂
7 月 15 日　記録管理学会理事女子会、東京
7 月 19 日　第 3 回公文書管理法 5 年見直し合同研究集会、学習院大学、東京
7 月 20 日　地引網　東海岸 3 丁目町内会、藤沢、神奈川
7 月 22 日　虫干しクラブ、新宿、東京
7 月 28 日　オケラの会、新宿、東京
7 月 29 日　記録管理学会理事会、八雲クラブ、東京
8 月　1 日　アレックス＋サヨ　結婚お祝い会、品川
8 月 3 日　総がかり街頭アピール、有楽町、東京
8 月 5, 8 日　札幌ビール祭、大通り公園
8 月 21 日　公文書管理法 5 年見直し合同提言書内閣府公文書課長に預け渡し、内閣府、東京
8 月 22 日　町内会役員会、市民の家、藤沢
8 月 23 日 原発国民投票街頭活動／ありカフェ懇談 藤沢
9 月 21 日　湊人くん誕生報告会、海賓亭、東京
10 月 6 日　東京学芸大学シンポジウム、東京
10 月 8 日　戦争法廃止！総がかり行動集会　戦争させない・9 条壊すな！総がかり行動実行委員会　文京シビックホール大ホール、東京
10 月 10 日　杉崎透・渡邉亜里紗結婚披露宴、東京
10 月 12 日　南部地区運動会綱引き、南部中学校、千葉県野田市
10 月 13 日　木村君をしのぶ会、素材屋、東京・大手町
10 月 17 日　旧交を温める会、菜な渋谷ﾏｰｸｼﾃｨ店、東京
＜主催＞
6 月 26 日、8 月 5 日　ドーナツの会、藤女子大学
8 月 2 日　夏の湘南 BBQ　国際資料研究所
8 月 4 日　セルジオ勉強会、八雲クラブ、東京
8 月 31 日～9 月 4 日　海外アーカイブ・ボランティア事業（セルジオ・ヴィエラ・デ・メロ資料整理、UNHCR）、ジュネーブ、スイス
10 月 5 日　㈱カネカ支援 2015 海外アーカイブ・ボランティア事業　セルジオ・ヴィエラ・デ・メロ資料整理報告会、大阪大学中之島センター
＜その他＞
6 月 30 日　国際マイクロ写真工業社訪問、東京
8 月 8 日　小川湊人　誕生
8 月 28-30 日　ベルリン観光旅行
9 月 17-18 日　研究室引っ越し整理、藤女子大学、札幌
10 月 8 日,11 日　ﾄﾞｺﾓｼｮｯﾌﾟでケイタイ更新、藤沢

■巻末随想

■LSF 図書館サポートフォーラム賞受賞！

3 月、表彰のお知らせをいただいたときは、この表彰を受けることになって、とてもうれしい、素直にそう思いました。ちょうど、DJI レポート、つまり国際資料研究所報の No.100 を 3 月 15 日付で発行したのと表彰のご連絡がほぼ同時期であったことも手伝い、これまでの仕事が一段落という感じもありました。表彰理由で、「近年の日本におけるアーカイブズ事業のほぼあらゆる方面において国際的、先導的 かつ啓蒙的な活動を展開されてきた」とご紹介にあずかりましたが、言い換えれば他にこの分野で活動しようとする人がほとんどいなかったということなのではないかと思います。1973 年、ドイツ系の貿易会社の一般事務員として働き始め、米国系法律事務所秘書、東京大学百年史編集室編集事務、総理府事務官と事務一筋で 1992 年 6 月に国立公文書館を退職しました。記録を作り、記録を管理し、記録を残す、これが事務一筋の日々の共通した仕事でした。1992 年 6 月で退職したのはフルタイムでの勤務の中での子育てに問題を感じたからでした。退職後は、1985 年以来続けてきていた全史料協に活動の場を得ることができました。ICA の活動に参画するに当たり、全史料協の国際担当の立場を与えられました。1992 年から 2008 年まで 16 年間、全史料協の立場でアーカイブの国際世界をウォッチしてきまし

た。この間 1995 年 1 月、阪神淡路大震災が起きました。この地震が文書館にどんな被害をもたらしたのかを知りたくなり、現地に出かけました。なぎ倒された書架とそこから落下した資料が、文書館の被害そのものでした。ある美術館では展示作品が倒れて壊れたということも聞きました。地域の古文書の被災状況を調べている人がいる一方、古物商が被災現場で資料を買い漁っていることも知りました。こうした現地の様子を他の人にも知らせたいと思い、ワープロで現地レポートを作りながら、ふと「これは新聞みたいにタイトルをつけたらどうかな。隔月刊なら、しばらくしたらまた書きたいことも見えてくるだろう。」と極めて安易な気持ちで『DJI バイマンスリーレポート』準備号 No.１、というタイトルをつけました。国際資料研究所の活動の発信が、この時から始まりました。その後、タイトルから「バイマンスリー」を削除し季刊発行のアーカイブ専門誌、DJI レポートということで今日に至っています。今 100 号全体の内容を振り返ると、アーカイブ界の話題提供のツールをめざして続けてきたという気がします。文書基本法を作れ、記録管理院を整備せよ、といった政治向きのカタイ話題から、ノミの市で買ってしまったアーカイブの箱のお話、時には猫の訃報に至るまで、何でもアリの紙面構成です。実のところ、DJI レポートは発行することに追われているため、あまり振り返ったことがありませんでしたが、受賞理由「近年の 日本におけるアーカイブズ事業のほぼあらゆる方面において国際的、先導的 かつ啓蒙的な活動を展開」を DJI レポートを用いてこれを少しは証明できるかもしれないと思いバックナンバーの目録を眺めてみました。わかったのは、全部で 93 回発行されたこと、電子版になったり、時々紙媒体でも発行されていたりすることなどです。100 号には、奥付に紙のマークをつけました。ホームページに掲載済の電子版（PDF）と区別するためです。DJI レポートはバックナンバーの大半を国際資料研究所のホームページに掲載しています。電子版も含め、No.5 から No.90 ごろまでは、国際マイクロ写真工業社様はじめ関係企業の皆様のご厚意による広告掲載がありました。この広告掲載が私の中では JHK の立ち上げにつながりました。アーカイブ「ギョーカイ」の形成に一役買ったかな、と思います。外来のアーカイブ関係者との交流や、海外で活動する日本人専門家の声の掲載、国内の専門家がアーカイブへの熱い思いを語る場ともなったと思います。LSF 創始者の末吉哲郎先生があるとき、「日本のアーカイブのことはこれを見ればわかる。これを見なければ日本のアーカイブはわからん。」とおっしゃって下さり、とても力づけられたことがありました。啓蒙的かどうかはおくとして、内外のアーカイブの話題を、面白いと思ったら紹介する、これが DJI レポート 100 号を貫く編集方針だと改めて自覚しました。一度だけ亡父が夢枕に立ち「記事の配置はその雑誌の品格を形成する。誤植もしかり。よくよく注意せよ。」といいました。それでも誤植、今日では変換ミスによる誤字は、本誌のなかには星の数ほどちりばめられてしまっています。これも個性と、ご勘弁ください。

最後に 2 冊の本のことをお話ししてご挨拶を締めくくりたいと思います。どちらも大阪大学出版会にお世話になりました。一つは 2009 年以来取り組んできた UNHCR のアーカイブ資料整理の報告を兼ねた、『アーカイブ・ボランティア』で昨年 6 月発行されました。は文字通りアーカイブのためのボランティア作業を紹介する本で、私は国連のアーカイブ資料や、チェルノブイリ事故後にユネスコが作成した放射能汚染資料の除染マニュアルの解説を担当しました。もう一つは『アーカイブ基礎資料集』です。5 月 1 日納品予定の『アーカイブ基礎資料集』は大学の授業で使うことを念頭に、公文書館法や公文書管理法などの法令や行動規範をまとめました。どうぞご期待ください。

■記録管理学会会長 2 期目

5 月 22-23 日は、四国・丸亀で記録管理学会研究大会が開催された。総会が開催され、役員改選も議題に。皆様の推挙により記録管理学会会長 2 期目を預からせていただくことになった。

記録管理は技術的な側面が研究関心の中心と思われるが、その技術を支える記録管理哲学というのだろうか、システム設計思想というのだろうか、これが経済効率主義一辺倒となると、保存を要する記録情報の誤廃棄や記録の不作成などの「問題」が頻発する。しかし、システム設計思想というか、記録管理哲学というか、ものの考え方の「軸」が固定されていないと、短期的な費用対効果、経済効率主義的評価が幅を利かせてしまう。バレなければいい、とか黙っていればわからないサ、などという軽い気持ちで日常業務、繰り返しおこなう作業を軽視し、手抜きすることに陥りやすい。人間の弱さ故なのだろうが、ここにこそ、落とし穴がある。課題として考えていこうと思う。

■おじいさんを探せ

私の二人のおじいさん、カツミさんとヨシハルさん。アーカイブ機関やアーカイブ資料で探索してみた。カツミさんは卒業生名簿で見つけることができたが、ヨシハルさんは不明。職員録に似たような名前はあれど、結局未確認。アーカイブは人探しには欠かせない。だから大切である。(ち)

Documenting Japan International Report 国際資料研究所報 電←電子バージョンのマーク！ ISSN 1342－632X
DJIレポート　DJIホームページ: http://www.djichiiyoko.com　No. 102　20151020
発行所：国際資料研究所 Documenting Japan International Email:djiarchiv@yahoo.co.jp 代表 小川 千代子
〒251-0045 神奈川県藤沢市辻堂東海岸3－8－24 fax+ phone 0466－31－5061